



東龍寺梅花講奉詠の中入堂 於・永平寺法堂 令和3年4月25日

昨年四月二十五日、一週間に渡る大本山永平寺報恩授戒会の中で、晴時(夕方のおつとめ)の焼香師をおつとめ参りました。焼香師とは高祖様(永平寺開山道元禅師)に報恩供養の一座の法要をつとめる大導師を指します。新型コロナウイルス感染症の為、一年延期されての授戒会厳修となり、また、感染が広がり、予断を許さない状況の中ではありませんでしたが、細心の注意を払いながら、二十名の団員と共に、お陰様にて無事つとめを果たすことができました。

殊に、昭和五十九年授戒会焼香師を拝命しながら、果たせずに亡くなった師匠

授戒会焼香師をおつとめして

東龍寺住職 渡邊宣昭

龍 聲

東龍寺報

平成元年三月廿五日創刊

発行編集所 〒959-1502  
新潟県南蒲原郡田上町  
曹洞宗 東龍寺  
電話 (0256) 57-3395  
FAX (0256) 57-2174  
ホームページ  
<http://www.ginzado.ne.jp/ryusei/>  
E-mail  
ryusei@ginzado.ne.jp



高祖様へお供えをする儀式 4月25日

で父でもある東龍寺先代住職と共に高祖様へ報恩の誠を捧げさせて頂き、感慨無量でした。また、四十八名の方々より、手縫いをして戴いた二十五条の尊い御袈裟を搭けておつとめできました事も無上の喜びでした。師匠や、袈裟を縫って参加できなかった方々も、一緒に高祖様の懐に抱かれて、焼香をさせて頂いた思いでした。

そして、この度の本山参拝で一番感じたことは、行持の継続の大切さということです。一般には、催しのことを行事と書いて、イベントという一過性の意味合いが強いです。高祖様は、行い持(たも)っていくことを重要視されており。

高祖様は『正法眼蔵』「行持」の巻で、  
『諸佛諸祖の行持によりて、われらが行持見成し、われらが大道通達するなり。われらが行持によりて、諸佛の行持見成し、諸佛の大道通達するなり。われらが行持によりて、この道環の功德あり』と、お示しです。

つまり、「諸仏諸祖が代々行持し、受け継ぎ伝えてきたことによつて、私たちがその行持を行うことができる。また、今の私たちの行持によつて、諸仏の行持がいま



焼香師をおつとめして記念撮影 於・光明蔵 4月25日



南澤禪師様に拝問して 於・不老閣 4月26日

ここに現れている。絶え間なく継続されてきた修証一如の行持の功德が今ここに現れている」と言われるのです。

一週間に渡る報恩授戒会は、永平寺で長年行われてきた重要な年中行持です。戒弟と呼ばれる山内の修行僧・外来の尼僧さん・全国から参集の一般檀信徒が、七日間寝食を共に修行をして、仏弟子として生きていく誓いを立てその証として、現永平寺八十世南澤道人みなくさくさく禅師様から、御血脈と御戒名を頂く儀式です。

それが、ウイルス禍の中、一年は中止され、もし、昨年も行われなければ、修行僧達は三年間授戒会に会うことができないことになり、修行中にこの大切な行持をつとめることなく永平寺を後にする雲水がほとんどになってしまいました。

そこで、第四波の広がりの中、全国からの在家の戒弟をお断りし、一年目と二年目の修行僧百十数名が戒弟となり、七日間の様々な法要儀式をつとめられるように工夫して、授戒会日鑑にそった行持をし、懺悔ざんげと正授という特に重要な儀式には、近隣の尼僧さんと永平寺従業員四十名の参加を得て、四衆しじゅう（比丘・比丘尼・優婆塞うぱさい（男性



本山を後にする際、龍門脇で 4月26日

在家信者）・優婆夷うぱい（寺族・女性在家信者）の戒弟を揃えて行つたのです。これこそまさに行持の継続がなされたといえるのではないのでしょうか。

永平寺が開かれて七百八十年近くになりますが、日々の行持が脈々と受け継がれています。この新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、なすべき行持を工夫しながら、続けていくことこそが、困難を乗り越えていく大きな力になることと確信した次第です。

合掌

### 永平寺参拝の記

新潟市 佐藤 岳 男

去る四月二十五日、一泊二日の東龍寺様主催の「大本山永平寺授戒会焼香師随参」参拝の旅に参加いたしました。参加者は渡邊宣昭老師の下、御寺族、御縁の深い方丈様方、東龍寺梅花講の皆様方を中心に総勢二十一名でした。私は、老師主宰の新潟日報カルチャースクール坐禅講座受講の縁での参加でした。

初日、早朝、田上町を出発し、北陸自動車道を経由して、午後一

時過ぎ永平寺町着。新型コロナウイルス蔓延の影響か、高速道路は車も少なく、永平寺町到着時人も影疎らで、これが、彼の門前町かと見紛うほどの静けさでした。

門前に到着して着替えした後、山内へ向かいました。本山も又時節柄厳格な入山規制中であり、団体参拝も他に一団体のみ。観光客は勿論の事、行き交う人も殆どなく、閑散とした佇まいで、待合室で待つこと二時間余り、四時となり、雲水の案内で法要会場である法堂へと赴きました。更に待つこと二十分、梅花講講師の御詠歌に合わせ、渡邊老師が導師をされた厳肅なる儀式「高祖大師猷湯諷經」がつとめられました。法要に参加されている百名近い僧侶の一条乱れぬ所作とその厳かさに唯々感動いたしました。

二日目、午前四時二十分に、宿「柏樹関」を出発し山内へ。清々しい春暁の法堂までの回廊を上り、法堂での朝課・先祖供養に参列し、鄭重なる供養を頂き、先祖へのおもいを新たにしました。また、貫首様と渡邊老師、御面会の折には、思いもよらぬ貫首様との記念撮影に与るなど、良い思い出となりました。

本山へは、これまでに授戒会や参禅研修等で数回訪れましたが、今回は入山規制や、宿も宿坊でな



日報メディアシップ一行、東龍寺にて参禅  
筆者前列左端 9月9日

く門前の立派な宿泊施設となるなど、異例づくめの反面、かえって聖地の趣の深いように感じました。なお道中、好天に恵まれ、残雪の霊峰立山・白山、蒼い海原や新緑の里山等々、春の景色も満喫しました。お陰様で種々貴重な体験のできましたことを感謝申し上げます。

拙句を添えて、御礼といたします。百僧の 背まつすぐに 春の法堂

住職より一言

佐藤氏は、住職が、平成二二年秋から、NHK文化センターで坐禅指導の講座を始めた当初から、参加され、令和元年秋、講座が日報メディアシップに移つてからも引き続き参加されておられます。その間、永平寺の三泊四日の参禅研修、拙寺眼蔵会にも来られた熱心な仏道修行者でいらっしゃいます。

この度の永平寺参拝にも、コロナウイルス禍の中、進んで参加して下さいました。益々のご精進をご期待申し上げます。

永平寺参拝と授戒会焼香師随行列に参加して

川之下 川 口 節 子

四月二十五、二十六日に行われた永平寺参拝と授戒会焼香師随行列の旅に参加いたしました。コロナ禍の影響もあり、参加人数を最小減に絞つての決行でしたが、参加させて頂きました事に感謝しております。

参加することが決まっていたから、当日梅花を上手くお唱え出来るかと毎日心配しておりましたが、厳

肅な雰囲気の中、意外と落ち着いてお唱えすることが出来ました。私にとつて旅の一番の課題であるお唱えを無事に出来た事にほっと安堵したのを覚えております。

御住職が永平寺授戒会の法要で焼香師をおつとめになられました。禅師様に代わり報恩供養の焼香師をおつとめされることはとても名誉なことだそうです。そういう大変貴重な場に同席できました事に感銘し、また深く感謝しております。

有志の皆さんが一針一針心を込めて刺された御袈裟を召されて堂々と御立派におつとめなされた事を皆様に報告させていたいただきます。

東龍寺の先代、先々代の御住職の法要も執り行われました。先々代の方丈様とは、私が子供の頃、母親の実家で毎年お会いしておりました。御馳走を目の前にして、谷の庵主様（東龍寺先々代の弟子・寒川昭英師）と御一緒に到着されるのを今か今かと待つていたのを読経を聞きながら、懐かしく想い出しておりました。

この度、コロナウイルス感染症の影響もあり、観光は省き、永平寺だけの旅でしたが、それだけにより深く仏道に浸透出来たかと思えます。この旅を機に私の生活は一変しました。それまでは仏事に



住職の母の米寿(誕生日)を祝う梅花講の皆さん  
筆者立位右から3番目 令和2年12月8日

は疎遠な方でしたが、毎朝、般若心経を唱え、ご先祖様に合掌し、先立つた夫の遺影、愛犬の遺影に話しかけて一日が始まります。

これから先も心穏やかに平穩無事に毎日が送れる様努めて参ります。

ありがとうございます。 合 掌

住職より一言

川口さんは、五年前に最愛のお連れ合いを亡くされ、その後、東龍寺梅花講に入られ、寺の行持に熱心に参加されておられます。先輩の講員とも仲睦まじく接して下さり、この度の永平寺参拝にも進んで参加されました。

これからも日々の行持を大切にされ、充実した信仰生活を送って頂くことを願っております。

住職となり改めて思うこと

湯川 安龍寺住職 齋藤 隆光



晋山の様子 5月16日

令和二年五月に予定されていた晋山式(新任職のお披露目の式)が感染症拡大により延期を余儀なくされました。そしてようやく昨年令和三年五月十五、十六日に約一年越しで執り行うことができました。式には安龍寺の本寺様であります東龍寺様の御住職、渡邊宣昭老師を西堂にお迎えし、教区の御寺院様をはじめ、多くの御縁のある御寺院様方、檀信徒の皆様

ご尽力により無事に円成することができました。ここで改めて御礼を申し上げます。コロナ禍ということでご当初予定していたものから変更、縮小しなければならなかったこともありましたが、感染症対策に気を遣うことも多かったですが、その分大変心に残るものとなり、一生忘れることはできないでしょう。

私は安龍寺の十八代目の住職となりました。先代の住職は師匠であり、父でもあります。師匠は若い頃に安龍寺の住職となり、約五十年勤めました。子どもの頃の私は師匠を父親としか見ていませんでしたが、修行を終え安龍寺に戻ってきてからは同じ僧侶の大先輩として見ていた自分がありました。師匠はとにかく作務(境内の清掃、維持管理など)が好きで時間があれば庭に出ているような人です。当時の私は、大して散らかっていないから今やらなくても良いのではないか、と思っていました。師匠はそうでは無かったようです。常に境内をきれいにしておくことが大事だったので、きれいに持



行持を終えて、東堂老師と 筆者右端 5月16日

龍寺様には日ごろから親しく接していただき感謝の言葉もありませ

また、檀信徒の皆様からも多くの励ましのお言葉をいただきました。改めて感じることは、私がいまここにいられるのは多くの方に支えられているからだということ。そして、それに応えられる自分になれるように日々精進していきたいということ。まずは師匠の姿を見習って、真似をして、師匠に少しでも近づけるように安龍寺の住職として精一杯勤めて行きます。

住職より一言

齋藤隆光師には、晋山結制の盛儀、誠に御芽出度ございました。東龍寺との深い関係の中で、西堂をつとめさせていただき有難く感謝しております。

師は、私の教えを檀信徒に伝え導く布教教化の道に力を注いでおられます。また、師匠である東堂老師には、小生が住職になった昭和五九年から、陰に陽にご指導ご鞭撻を頂いてまいりました。

素晴らしい師弟関係を保ちつつ安龍寺様の益々の御隆昌をお祈り申し上げ、また、東龍寺との関係を一層親密にして頂くことを願っております。

つために掃除をしていたのです。道元禪師の『正法眼蔵』に「行持」という巻がありますが、この「行持」というのは修行を続けて持つていくことです。それも強制ではなく見返りを求めず自発的に行っていくことが「行持」です。師匠の行持は作務だったので、ですから時間があれば外に出て掃除をしていたのでした。私がそれに気づいたのはつい最近のことです。

僧侶は一生修行です。私には「行持」と呼べるものはありません。ですが、東龍寺様をはじめ多くの御寺院様から常日頃から学ばせていただいております。特に東

### 永平寺での出会い

静岡県明光寺住職 手塚裕太

私は、静岡県静岡市にございませぬ明光寺住職の手塚裕太と申します。

私の永平寺での修行時代に、役寮としてご指導いただいたのが東龍寺御住職、渡邊宣昭老師でございます。修行後も何度か東龍寺の眼蔵会にも参加させていただきました。その渡邊老師の物事に丁寧に取り組む姿勢や、仏道に対する想いに惹かれ、この度ご縁をいただきました。そして、当山にて執り行われました、「晋山結制式」の西堂老師という役をお引き受けいただきました。昨年十一月二十日・二十一日の二日間にわたり行われたこの式は、当山にとつて五十数年ぶりとなる住職就任の式、その中で西堂老師とは、法要における第一の主賓であり、五十名もの僧侶を結集させて二日間の式を指導され、これを証明するという大変重役でございます。このようなお役をお引き受けいただいたこと、また式へのお祝いの品として自筆の掛け軸をいただいたこと、その老師のお心遣いに大変感謝しております。また、当日は晋山結制式の見どころの一つでございます大問答で用い

るお題について、本則提唱という法要にて大勢の方の前でよりわかりやすく説いて下さいました。老師は丁寧で柔らかい口調の中にも仏法の本質をわかりやすく説かれ、法要に随喜しておりました当山の檀信徒をはじめ、多くの僧侶の心に響いたとお声を受けています。これも老師のお人柄があり、また日頃からの老師への絶大な信頼があつたことだと感じる次第でございます。



本則提唱 筆者中央 11月20日

老師のお見守りの中、二日間にわたる式も無事に円成することができ、感謝の思いをお伝えすべく、本来なら東龍寺様へ拝登に伺わせていただきたいところではございますが、昨今の新型コロナウイルス感染の影響もあり、未だ直接のご挨拶ができていないことを非常に残念に思います。安心して移動ができます時には、改めて東龍寺様へ拝登させていただきます、御礼申しあげたく存じます。

現在、東龍寺様の檀信徒の皆様におかれましても日々不安な生活を強いられることと思ひますが、私が信頼する渡邊老師ですから、困ったことやお悩みのことがあれば是非、お寺へ出向くという選択を心のどこかに置いておいていただけますと、老師を慕う私にとつても幸いなことでございます。東龍寺様に関わる皆様のご健康とご多幸を祈念し、私からのご挨拶とさせていただきます。

#### 住職より一言

手塚裕太師におかれましては、晋山結制の盛儀、誠に御芽出度ございました。

師がご寄稿くださったように、本山での出会いを大切に感じてくださり、西堂という大役つとめさせて頂いたこと大変有難く感謝しております。

師が、役寮の小生に、本山を御暇する挨拶に来られた際、真剣な眼差しで、檀信徒教化のやり方を訊ねてくれたことを思い出します。どうぞ、初心を忘れずご精進ください。



東堂 西山全成老師・奥様・ご親族と 11月21日

また、この度引退され、東堂となられた西山全成老師の奥様は、田上町の東龍寺檀家の御出身で、老師と共に、長年、明光寺様を護持し隆昌に導いてこられたご様子がよく伝わって参りました。今後の聖体長養をお祈りしております。

#### 眼蔵会案内

第十九回眼蔵会を七月七日(木)〜九日(土)に予定しております。新型コロナウイルスの感染症の流行状況に応じて、宿泊・食事等のやり方を決めてまいります。

### 東龍寺本堂とその棟梁・小黒杢右衛門

独立行政法人国立文化財機構  
奈良文化財研究所 研究員

目 黒 新 悟

筆者は、重要文化財旧笹川家住宅（一八二六）の棟梁、五代小黒杢右衛門（一七六九—一八五六）の研究を二〇一三年から行っている。村松（現、五泉市）の小黒一族は、初代が出雲崎大工の出身で、村松陣屋造営のため村松に転居したことに始まる。それ以降の歴代が、村松で大工・小黒杢右衛門を世襲・襲名した。

近年、筆者は五代以外の歴代の小黒杢右衛門を対象を挙げ、研究を進めている。五代の父にあたる四代小黒杢右衛門（一七二七—一七九九）が、一七七一年に東龍寺本堂を手がけたことを古記録から知った。そこで、渡邊住職のご協力を得て、二〇二一年に本堂の調査を実施した。本稿では、その概略を紹介する。

本研究の発端は、新潟大学で建築学を専攻していた筆者の卒業論文である。筆者は五泉市橋田地域の出身で、曹洞宗の岩松院が菩提寺である。近隣には、曹洞宗の吉祥寺や正善寺が存在した。事前調査で、これらの造営に小黒一族が関与していたことを知り、卒業論文の着想に至った。大学卒業後も、

研究を継続している。

小黒家の末裔が所蔵する古記録（五代の手記）には、四代が手がけた建物として「寅年田上村東龍寺四月新立、同卯八月上棟、前通拾間半、奥行八間、上屋地の上三間老尺、下屋地の上老丈六尺、来光前二手先、たる木作り」と記される。文脈から、「寅」、「卯」はそれぞれ一七七〇年、一七七一年と分かる。

調査の当日は、建物を実測して本堂の平面図を作成したほか、伝来する棟札を確認した。棟札には、「棟梁小黒杢右衛門」、「明和□□年至安永□□年」の年紀があり、四代小黒杢右衛門の造営であることとを追認した。

建物は、現状で桁行二〇・三m、梁行一四・九m、入母屋造、銅板葺、向拝付の本堂で、乱石積基壇



五代の手記（個人所蔵）

上に建つ。正面の軸部は、延石と土台を回して角柱を立て、上方を内法長押、飛貫、木鼻付の頭貫・台輪などで固める。両側面と背面の軸部は、礎石に角柱を立て、貫で固め、柱天載りの軒桁をまわす。組物は、正面に拳鼻・実肘木付の平三斗を置くが、両側面と背面にはない。軒は、正面が二軒繁垂木で、両側面と背面が一軒繁垂木である。正面とそれ以外の面とで、組物と軒の形式が異なる。

内部は、禅宗方丈型本堂六間取式の整った平面で、大縁の独立柱から手前は旧露地（土間）である。両側面の入側には廊下を設ける。大間両脇の部屋境に柱が立たず、一八世紀中期以降の形式を示す。当初は、大間両脇に内法長押がまわり、内法には引違戸が、その上には欄間が納まっていたが、これらは後世に撤去され、現状では三部屋が横に連続する。

大間の内陣境には二本の円柱を立て、頭貫形虹梁と台輪で繋ぎ、尾垂木・拳鼻・実肘木付の二手先組物を置く。この組物は、大間両脇を含む三方に置き荘厳する。来迎柱は円柱で、木鼻付の頭貫・台輪で固め、拳鼻・支輪・実肘木付の出組組物を置く。

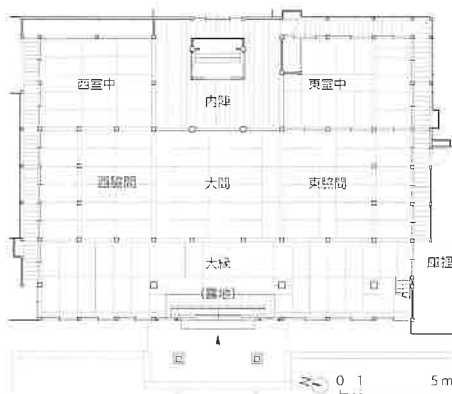


棟札

この建物は、建立年と工匠が明らかで、県下の曹洞宗寺院本堂の中で大規模な部類に入る。平面は整っており、組物と軒の形式が特徴的であるなど、貴重である。

越後の曹洞宗寺院の造営には、出雲崎大工が深く関与した。特に小黒姓の大工たちで、重要文化財種月寺本堂（一六九九）は小黒甚七、新潟県指定文化財雲洞庵本堂（一八世紀初頭）は小黒甚内が棟梁である。東龍寺本堂など、村松の小黒一族による建物が、その系譜としてどのように位置づけられるか、検討を進めたい。

本研究は、松井角平記念財団（二〇一九年度助成金、代表：目黒新悟）およびJSPS科研費JP20K14944の助成を受けた。小黒大工に関する情報があれば、筆者までご提供願いたい。(shin-goneguro@gmail.com)。



東龍寺本堂平面図（2021年作成）

任職より一言

四月六日に、突然のメールで調査の依頼を頂きました。その折、東龍寺は、昭和五十九年に本堂屋根改修並びに土台上げをしておりますので、果たして思うような成果上がるのだろうか心配しましたが、ご寄稿のごとくの成果をあげて頂くことができました。特に東龍寺棟札には上棟の年号がはつきりわからなかったのが一七七一年（明和八年）八月と判明したことは、無上の喜びです。

そして、棟梁・小黒左右衛門がいかに素晴らしい棟梁であったかも再認識することが出来ました。また、その六年前の一七六五年（明和二年）十一月には、大元宗龍禪師を戒師に百二十三名の戒弟参加の下、大授戒会を時の任職十一世再中興悦堂禅梁大和尚が厳修しておられます。この授戒後に普請をされたのだなあと改めて思いをさせております。当然、普請をされた任職は、棟札には記載があ



調査中の筆者 6月4日

曹洞宗心の電話

TEL 0120-508-740  
携帯電話 03-3454-5410

こちらに電話をすると、全国の曹洞宗の方丈様達が一週間交代で、3分間の「ほとけの心」をわかりやすく説いた法話が流れます。24時間いつでも繋がりますので、是非、お聞きください。

永平寺電話説法

TEL 0776-63-3399

役寮が、10日ごとに代わって、3~5分の法話を行なっています。



筆者右端 6月4日

りませんが、悦道老師であろうと推測されます。二五〇年を経た本堂ですが、これからも大切に護持していかねばと肝に銘じております。目黒氏には、限られた時間の中で、熱心に調査頂きましたことに厚く御礼を申し上げます共に、今後とも、ご指導いただければと願っております。

東龍寺年中行持

- 六月 金毘羅大祭
- 八月一日 うらぼん会（盆参）
- 八月二四日 水子地藏尊並びに観音様大祭
- 九月二三日 秋のお彼岸会（お彼岸の中日）
- 十月十日 常齋米法要
- 十二月三十一日 除夜祭（除夜の鐘）
- 一月一日 大般若祈禱会
- 一月二日 寺年始（近隣の檀家）
- 三月二日 寺年始（遠方の檀家）
- （お彼岸の中日）

令和三年度事業、行持報告

- 一月に一度、照光殿二階・開山堂・位牌堂の害獣防除を行つている。
- 一、四月二五日（日）〜二六日（月）に、田上本山講では「大本山永平寺（授戒会焼香師随）参拝の旅」を新型コロナウイルス禍の中、二泊三日の予定を一泊二日に縮小して、定員二十名で行つた。
- 一、六月一日〜二日、山門下参道並びに駐車場脇の杉伐採



山門下参道並びに駐車場脇の杉伐採 6月2日

- 一、六月二日〜三日、六〇年近く使用してきた自然水貯水タンクを閉じた。



自然水貯水タンク閉じる 6月3日

- 一、八月二四日（火）、第四三回水子地藏・第二二回聖観世音菩薩大祭を行つた。説教と御齋、無。
- 一、第十九回眼蔵会、第十一回湯田上温泉祭り、第二十五回秋の講演会は、新型コロナウイルス禍の中、昨年に引き続き、来年に延期致した。



境内舗装工事、7月20日

- 一、七月二十日（火）に、玄関前、駐車場、取り付け道路等の舗装改修工事を行つた。



大杉樹勢回復工事 7月20日

- 一、六月二五日（金）午前十一時より、第三十二回金毘羅大祭を安龍寺様・光明寺様に随喜頂いて、講員二十八名が参加して行つた。御齋無し。
- 一、七月二十日（火）〜二一日（水）午前に、大杉樹勢回復工事行つた。此度は、田上町教育委員会より、町の名木として、補助を頂いた。

【寄付御礼】

一、三月十七日(水)、本堂大間に二対(四本)の幢幡をご寄付頂いた。寄付者は

- ①東龍寺二世・二三世
- ②東龍寺二世・二三世
- 世・二三世
- 各寺族、六名(二二・二三世娘)



幢幡二対入る 3月17日

③三条市 渡邊すゞ氏、渡邊喜彦氏、渡邊洋子氏。

④三条市 マルソー株式会社。一、五月二日、三条市渡邊喜彦氏より、本堂西室中の障子戸・位牌堂のガラス戸・真ん中の仕切り四か所・旧館のサッシ破損ガラス戸・露地周りのカーテン、修理をして頂いた。



位牌ガラス戸直し 5月21日

一、九月十七日(金)、田巻敏御夫妻より、御山堂に吊灯笼一對をご寄付頂いた。



田巻敏氏49日の折、遺族と吊灯笼前で 11月6日

【参禅の報告】

一、三月十一日(木)、「日報メディアアシップで坐禅に親しむ」の会員七名、坐禅二炷、お齋。

一、六月十八日(金)カルチャースクール×未来のチカラ」十二名。イス坐禅と諸堂案内。一、七月二日(金)、上越市立保倉小学校六年生(児童十四名、教員三名) 修学旅行の中で参禅。



本堂でおつとめ 7月2日

一、九月九日(木)、「日報メディアアシップで坐禅に親しむ」の会員七名、坐禅二炷。お齋中止。一、十一月二七日(土)、ポーンイスカウト新潟十四団(亀田・横越地区)、五四名(団員三三名、保護者十七名、引率者四名)、参禅と掃除。



坐禅の様子 11月27日



本堂拭き掃除の様子 11月27日

一、十二月七日(火)、国際ホテル・ブライダル専門学校「葬祭ディレクター科」一行、十六名、引率二名、参禅。

【令和四年度事業行持案内】

一、七月七日(木)〜九日(土)に、駒沢大学教授角田康孝老師を講師にお招きし、第十九回眼蔵会を講本「行持の巻(五回目)」で、開催を予定している。

一、十月九日(日)午後七時より、田上町仏教会では、東龍寺を会場に、講師に高田都耶子(華聖)先生(元薬師寺管主・故高田好胤老師のお嬢様)をお招きし、第二十五回秋の講演会を予定している。

【月例加茂法話会】

一、毎月一回、夜、加茂市中央コミュニティセンターを借り、僧侶十名(三名ずつ担当)による法話を聞く会を開催しています。お気軽にご参加下さい。

【月例坐禅会の御案内】

一、月例坐禅会を毎月第二土曜日(夜七時半より)行っています。お気軽にご参加ください。

【心の癒し坐禅体験】

一、毎週水曜、木曜(祭日は除く)の午後四時から、約一時間、湯田上温泉宿泊者対象の坐禅修行体験は、コロナ禍の中休止しています。

【梅花講のお知らせ】

一、梅花講では、毎月七日と、二十三日の二回練習をおこなっています。お始めになりたい方は、お気軽にご参加ください。

【お盆、棚経の日程】

一、今年はお盆の棚経回りを下記の日程で行いますので、ご理解とご協力の程、お願いいたします。

【お盆前】

新潟・亀田・三条・巻・燕・白根

【十三日住職】 新津・中山・赤渋・笠巻・三ツ屋・三枚潟・市ノ瀬・覚路津

【お盆中住職】 十四日 湯川・谷・中店 十五日 山崎・山田・湯古屋 十六日 羽生田・川船河

【光明寺様】 十四日 川之下・原ヶ崎・下吉田 十五日 鎌倉・新保・龍玄・嶋・庄瀬・石田新田・後藤・曾根・横場 十六日 加茂地区

【少林寺様、若様】上野・本田上尚、当日多少の変更が出る場合もあるかもしれませんが、ご容赦ください。

編集後記

寺報三十四号を発刊するに当たり、佐藤岳男氏、川口節子氏、齋藤隆光師、手塚裕太郎、目黒新悟氏より、ご寄稿を賜り有難うございました。今後皆様のご寄稿をお待ちしております。

令和三年度も二年度に引き続き、諸行持が思うようにできず、四年度も先が読めない状況の中ではありますが、感染防止に留意しながら、眼蔵会・秋の講演会等の行持を行いたいと願っております。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、世界情勢も混沌としておりますが、世の中の安寧を心よりお祈りしています。

住職 合掌